

国際交流事後活動ニュース

特集 航空機による派遣事業
第13回「世界青年の船」

マクロコズム 2001.1

◎カラー



vol. 38

(財)青少年国際交流推進センター

第7回「国際青年育成交流」事業

オーストリア、ブラジル、デンマーク、フィンランド、ジョルダン、タイ、ジンバブエの各国に9月19日から10月11日の日程で日本代表青年が派遣されました。

施設訪問



▲ 障害児の保育園（オーストリア）



▲ 日系人学校での交流（ブラジル）



▲ 環境庁にて環境政策のレクチャーを受ける（デンマーク）

▼ ジョルダン大学で日本語を履修する学生と交流（ジョルダン）



◀ 盲学校での制作現場訪問（ジンバブエ）





▲ 生活水の源である井戸の前で (ジンバブエ)

ホームステイ



▲ 日本の食文化を披露 (フィンランド)

国際協力の現場へ



◀ ホストファミリーと朝の托鉢を体験 (タイ)

▼ ジャバル・アル・フセイン難民キャンプの医療センター見学 (ヨルダン)



▶ 青年海外協力隊の音楽指導授業に協力 (ジンバブエ)

第22回「日本中国青年親善交流」事業 (2000.9.23 ~ 10.11)



▲ 中華全国青年連合会主席への表敬訪問

▼ 万里の長城にて



◀ 歓迎会にて

第14回「日本韓国青年親善交流」事業 (2000.9.27 ~ 10.11)

▼ 全員集合!





情報化と地球市民としての コミュニケーション

明治学院大学教授

川上 和久

(平成12年度ジョルダン団団長)

皆さんこんにちは。2000年の「国際青年交流会議」によろこそいらっしました。

明治学院大学法学部で政治学の講座を担当しております川上和久と申します。私の専門は、社会心理学、情報メディア論です。情報メディアのこれまでの発達を一方の極において、もう一方の極にグローバルなコミュニケーションはどういった形で可能なのか、情報ネットワークの中での地球市民としてのコミュニケーションをしていける可能性はどのようなところにあるのか、を論じてみたいと思います。

1 個人の情報環境がどのような形で形成されているのか

個人の情報環境を形成する要因を考えるにあた

り、文化の役割を考えないわけにはいかないと思います。人は、生まれて、いろいろな社会化のエージェントの中で大人になる。社会化のエージェントは、家族、仲間集団、学校、マスメディアなど、非常に重層的なものです。その中から文化というものが作り出されてきた。そして、文化そのものが物の見方に大きな影響をもたらしている。その例にステレオタイプがあります。外国の本で日本人のイラストを見ると、眼鏡をかけて、カメラを下げて、出っ歯、そういう特徴がよく描かれています。皆様が実際に日本に来て、眼鏡をかけて、カメラを下げて、歯が出ている日本人をどれだけご覧になったでしょうか。こういったステレオタイプを作り出している文化の制約の中で、様々な物の見方が形作られてきたということをまず指摘

主 要 内 容

情報化と地球市民としての コミュニケーション……………5～11 明治学院大学教授 川上和久	リフレッシュクルーズのお知らせ……………16
本物のホスピタリティとは……………12～13	2001年山口全国大会に向けて……………17
「第1回青年の船2000年 記念のつどい」の開催……………14～16	活動スローガン募集……………18
	平成12年度青年国際交流事業報告会……………19

〈表紙の説明〉

第13回「世界青年の船」
参加青年全員集合！
（「にっぽん丸」にて）

しなければならない。そして、その文化の制約というものが、メディアの発達と共に変化してきている。プラスの方向に変化した部分もあれば、マイナスの方向に変化した部分もある。

2 情報ネットワークの形成による情報環境の拡大について

中世のヨーロッパにおいては、それぞれの地域社会がかなり孤立していました。交通も停滞していたし、言語の多様性があった。50 マイル離れると言葉が通じなかった、そんな地域もある。そういう情報流通が限られている中で、ある時は旅芸人、ある時は吟遊詩人といったコミュニティから独立した漂泊の民が、情報の流通を担っていた。しかし、そういった人たちの情報は、著しく誇張され、そして歪んでいたことも多かった。文化は、情報の流通が限られている時、非常に大き

な歪みを生み、その歪みを前提として、物事を判断する。そういう問題が生じる。それに風穴をあけたのが、グーテンベルグの活版印刷技術の発明です。活版印刷技術の発明によって、大量に印刷をし、大量に情報を伝達する手段がもたらされた。これによって、一つは情報環境が飛躍的に拡大する。そして同時に、限られたコミュニティの中の既存の常識を破って、百科事典とか聖書に代表されるように、標準化が著しく進む。さらに、宗教改革に代表されるように、新たな世論集団が作られる契機にもなった。人間が発明した様々な情報メディアの新しい技術が、既存の常識を打ち破って、新しい世界への扉を開いていった。しかも、認知のレベルで新しい世界を知るというだけではなく、実際に自分たちと異なる世界を動かして行く、あるいは、自分たち自身の世界を動かして行く力にもなった。

新世紀の年頭にあって

財団法人青少年国際交流推進センター理事長
山田 馨司

あけましておめでとうございます。

新しい世紀が始まります。

総務庁が行っていた青年国際交流事業の大部分が、今年から省庁再編で新しくできた内閣府に引き継がれます。

これまで、当センターがIYEOを中心とするボランティアの皆さんの協力を得て行ってきた外国青年の受入れプログラムの企画及び実施、既参加青年の事後活動の推進などの仕事は、ますます重要になってきます。

この「MACROCOSM」が、内閣府の青年国際交流事業とともに発展し、21世紀にふさわしい充実したものとなるよう、読者の皆さんの一層のご支援、ご協力をお願いします。

3 マスメディアの登場と情報の共有によって生まれた葛藤について

いろいろな手段でコミュニケーションの技術が発達してきました。例えば、郵便制度はイギリスで1478年に始まりました。1789年のフランス革命以来1800年までに、新聞、パンフレットが1350種類発行されたと言われています。これはグーテンベルクが発明した活版印刷の技術が、政治的なパワーとして実を結んできた、一つの現われです。アメリカの独立戦争においても、世論を形成するのに、新聞が非常に大きな役割を果たした。即ち、情報の発達によって、情報を共有すること自体が、人間の欲求を顕在化し、そして標準化と共に、ネットワーク化の力をも発揮するということを意味しています。

4 近代国家の意思とネーションステートの国民としてのコミュニケーション環境

1850年代に、ニュース通信社が生まれました。このニュース通信社は、1860年代に、アメリカの南北戦争で大活躍をした。1880年代には、アメリカ、ヨーロッパの都市部で電話の発展が見られた。通信社、電話の発達が新聞のカバーする広がりを生み、新聞自身の持っている世論を作り出す力を強化していった。それが結果的に、どのような社会をもたらしたのか、二つの例をあげてみます。

一つはアメリカとスペインが戦った米西戦争ですが、その直接的な契機になったアメリカの戦艦メイン号の爆発事件について、原因が不明であったにも関わらず、アメリカの新聞がスペインの機雷が原因であるという報道を徹底的に行った。当時のマッキンリー大統領は、当初外交交渉によってスペインとの問題を解決しようとしていたけれども、新聞によって煽られたセンセーショナルな

内閣府政策統括官（総合企画調整担当）

総務庁青年国際交流事業は、省庁再編で「内閣府政策統括官（総合企画調整担当）」という新設部署に引き継がれました。内閣府とは、内閣機能の強化のために設置されたものであり、大臣官房、重要施策を担当する7つの政策統括官と賞勲局、男女共同参画局、国民生活局、沖縄振興局等で構成されています。

青年国際交流事業は、7つの政策統括官のうち「青少年・高齢者・障害者・交通安全対策」を担当する総合企画調整担当の部署に組み入れられたのです。

詳細については、3月号の誌面にてお知らせします。

*内閣府代表番号 TEL. 03-5253-2111（代表）

事後活動担当である国際交流振興係 TEL. 03-3581-1181（直通）

「国際青年交流会議」基調講演要旨

ムに対抗することができずに、開戦を決意した。つまり、まず国家の意思があり、その国家の意思をメディアが伝えるというのではなくて、メディア自身が国民の意思をも決定する重要な役割を果たすようになってきた、ということを示しています。

もう一つの例として、タイタニック号が沈没したのは、1912年4月15日深夜のことですが、翌日の午前中にはもうアメリカとヨーロッパにおいて号外が出ています。これは、無線通信が実用化され、情報通信網が著しく拡大したことを示しています。

このようなメディアの発達で、20世紀において、どのような機能をもたらしたのか。私は、この情報メディアの発達をもたらしたマイナスの側面に言及しないわけにはいきません。情報メディアが発達すればするほど、近代国家において、コミュニケーションをコントロールしようとする国家の意思が働いてきた。

第一次世界大戦は総力戦と言われたが、映画、ポスター、看板、様々なメディアが動員され、例えば兵隊を募集する、士気の高揚を図る、勤労働員をする、敵の残虐行為を宣伝する。あらゆるメディアが動員され、国家の意思を情報メディアが作り上げ、それによって、残念ながら偏見をももたらした。

19世紀から20世紀の近代国家を形成していく過程において、情報の発達が一方向では外との境界を消失させ、タイタニック号に象徴されるように、あらゆる世界における情報が入手できるようになった反面で、ネイションステイトとして内と外を心理的に明確に峻別していくという側面をも持った。そして、今日に到っても、情報メディアの発達が、世界中のあらゆる情報を入手できるというプラスの側面と、ある共同体の一員として、その共同体の内と外を峻別するという機能も持たざるを得ないと感じています。



分科会にて
◀ (オーストリア団)

5 新しいネットワーク時代について

新しい電子メディアの情報ネットワークの発達を三つの側面に分けて、簡単に説明します。

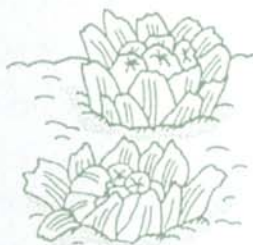
一番目は、ネットワーク自体の技術的な発達です。もともと、インターネットは、一か所が破壊されても、ネットワークとして生き残っていく強靱さを持った情報通信の仕組みができないものだろうかという軍事的なニーズから生まれたものです。1969年に、アメリカ国防省によるアーパネットの実験が開始され、1975年にインターネットプロトコルが始まり、1977年にアーパネットのプロトコルを使った他のネットワークとの接続実験が行われた。このような標準化の進展が、情報通信技術の発達によってもたらされた。

二番目は、ネットワークの形成を促す端末の普及です。1981年に初めてIBMのPCマシンが登場し、1年遅れて日本のNECがPC9801というマシンを発売した。その後、任天堂がファミリーコンピュータを発売しました。パーソナルコンピュータの発達は、ノートパソコンの普及を生みました。テレビゲームのファミリーコンピュータは、今ソ

ニーのプレイステーション2というマシンに代表されています。次いで様々なモバイルツールが登場してきました。そして、携帯電話、ノートパソコン、テレビゲーム機、モバイルツール、携帯電話、どれも日本においてはインターネットの端末としての機能を持つようになっていきます。あと3年、2003年には、こういったものを全部含めて、インターネットに接続できる環境は、全日本の家庭の90%を超えるという計算をする学者もいます。

三番目は、商用オンラインの発展です。日本においても、1984年に電子メールのサービスが開始され、1994年には、商用のインターネットが開始されました。

ネットワーク時代の技術的裏付けと、ネットワーク形成を促す端末の普及、パソコン通信の発展、この三つの相乗作用で、現在日本においても、空前のインターネットブームが起こっている。今年3月の数字で、日本のインターネット人口は約700万人です。2年後には、7,000万人になろうと言われています。こういったインターネットブー



「国際青年交流会議」基調講演要旨

ムが何をもたらしているのか。

それはまず、情報の発信ということに大きな影響をもたらす。インターネット時代になり、テレビ局を作らなくても、新聞社を作らなくても、受け手にとって重要な情報であるならば、多くの人たちが個人が発信する情報の受け手になってくれる、そういう時代になってきた。

しかも、インターネットの普及において、様々な流動化が起こっている。例えば、公的な場と私的な場、パブリックな空間とプライベートな空間の区別が流動化する。あるいは、インターネット上では自分の社会的地位を明らかにする必要はありませんから、社会的地位が上であるか下であるか、あるいは男性と女性、あるいは住んでいる地域、こういった社会学的な壁を越えたコミュニケーションを成立させ得る。



6 世界はどのように結ばれるのか

このような新しいコミュニケーションツールの登場によって世界がどのように結ばれていくのか。我々は、自分が所属する文化、所属する準拠集団のメンバーとしての意識をそれぞれ大切にしなければいけない。また、今までのネーションステイトの国民としての意識も非常に重要です。国民としての意識が戦争を生んだこともあったけれども、国民、ネーションステイトという意識は、今後もある意味で重要な意識です。三番目に、広いネットワークで結ばれた、シチズンを発展させたネティズンとしての意識をもっていろいろな課題の解決にあたっていく時代が来ている。

これら三つの意識が、葛藤を経ながらも、徐々に統合されていく力をインターネットは持っている、と私は感じています。それは、インターネットが従来のメディアと違う点、すなわち、非常に多角的で多様な情報に接することができること、そして、世界の透明性を高めて、これまでの情報以上にリアリティーを感じるができること、こういった様々な特徴から感じるのです。

二つの例を挙げてみます。リーナス・トーバルズ氏は、フィンランドの学生でしたが、1991年、ユニックス系のOSを改良して、リナックスというOSを作り上げた。このOSはオープンソフトウェアとして、世界中のネットワークを結集することによって、マイクロソフトという巨大企業に対抗するだけの力を持つことができた。

もう一つ、1995年に始まったSETI@HOMEというプロジェクトがあります。宇宙からの電波を受け取って、地球以外の生命からの電波かもしれない、という可能性を皆で考えていこうというプ

プロジェクトです。これには世界の200か国のボランティア77万人のPCが参加し、使ったコンピューターの稼働時間は延べ2万3千年分だと言われている。

情報通信技術の発達で、このような大きなプロジェクトを可能にした。私はこのような現実を見るにつけても、インターネットが、NGOあるいは草の根交流をより強化して、まさに地球市民としての意識を高めるツールに育っていると感じます。そして、ソフトの発達によって、知ることだけではなく、人の痛みを自分の痛みとして分かち合っていける、そういう意識をも、これから来るべき21世紀のネットワーク社会が育てていっていただければいいな、と感じています。

ここに集まっている若い青年の皆さんは、次の機会を待つ、世の中が変わるのを待つというよりも、むしろ、自分たちから進んで、情報メディアを味方として、機会をつくりながら、ある時はすばらしい出会いを経験し、ある時はお互いの共通の基盤を知り、そしてそれを強め合う、といったことを通じ、21世紀のネットワーク市民として、地球的規模の様々な問題の解決に力を発揮して欲しいと願っています。

私のこの今日のスピーチは結論が出てくるものではありませんでした。いろんなことを話しましたが、私の話は次のディスカッションに向けての一つの問題提起だと考えていただきたいし、この後の分科会にこの基調講演を生かしていただけたらと思います。



本物のホスピタリティとは

平成12年度「国際青年育成交流」事業
フィンランド団副団長 小田 長子

今年度の「国際青年育成交流」事業青年海外派遣プログラムで、9月19日から10月11日まで23日間にわたり、副団長としてフィンランドを訪問するという素晴らしい機会を与えていただきました。第6回「世界青年の船」に参加青年として参加させていただいたことはありますが、同じ国際交流プログラムでも、一つの国に約3週間滞在して、さまざまな機関、施設の見学や現地の方々との交流を通じてその国と自分の国について深く考える機会を得たというのは、今までにない貴重な経験でした。主な訪問都市は、首都のヘルシンキを皮切りに、北極圏のサンタクロースのふるさとであるロバニエミ、ノールウェー国境に程近いイナリと様々な地域を訪問することができ、同じ

フィンランド国内でも地域による特徴や文化の違いを肌で感じることができました。素晴らしかったフィンランドでの滞在について書きたいことはたくさんありますが、今回は受入れていただいた際に、大変ありがたいと感じたことや、今後海外からお客様を受入れるときに自分が是非参考にしたいと思ったことについて述べたいと思います。

フィンランドでは、CIMO (Center for International Mobility) という教育省の外郭団体が、今年で3回目の受入れを引き受けて下さいました。CIMOは青少年関係のプログラムに関する活動を幅広く行っている団体で、日本以外の他の国との青少年交流プログラムも意欲的に手がけているとのことでした。私たちは、到着して最初にCIMOを訪れ、プログラムの担当者ヘリナさんがオリエンテーションを開いて下さいました。11名分のファイルを一人一人の名前入りで用意してくれ、それにはフィンランドに関する一般的なパンフレットやホームページからの情報、ヘルシンキ滞在中に必要な情報などがすべてコンパクトにまとめられていました。そして、何か聞きたいこと、やりたいことがあれば、遠慮せずに教



えてほしいと言ってくださいました。その後、滞在中の主なスケジュールについての基本的説明があり、こちら側から事前をお願いしてあった訪問先については、なるべく多く組み入れるように心がけたと説明して下さいました。そして、訪問できない施設や団体でも、調べる際に資料を取り寄せたり、コンタクトを取ったりしてホームページの情報や、パンフレットなどをそれぞれの団員に手渡して下さったのです。11名の異なる興味を持つ団員全員の希望をすべてかなえることは、物理的にも無理ですが、できるだけわたしたちがやりたいことや、行きたいところについて、少なくとも何らかの情報が得られるようにして下さる姿勢には脱帽しました。自分の国に海外からお客様が来たら、こちらが良いと思うことを、ただ押し付けるのではなく、相手の意向も組み入れた内容でプログラムを組む姿勢は、是非見習わなくてはいけないと思いました。

もう一つ、驚いたことは前回の反省が、全て次の年の内容に反映されていることでした。オリエンテーションやエヴァリュエーション（プログラムの評価）を行う時間が日程に組み込まれてあり、しっかりしたフォームの提出書類の形でCIMOに対して意見や提案を述べられるようになってい



たことです。そして、前年に改善したほうが良いとされた意見に関しては、何らかの改善策が取られていて毎年プログラムが良くなっているとのことでした。例えば、昨年、国技であるアイスホッケーの試合を招へい青年たちと見に行ったのですが、日本ではあまり知られていないスポーツなので、ルールがあまりわからなかったため、「ルールがわかればもっと楽しめた」という意見が出たそうです。それを受けて、今年は試合を見に行く前に、ビデオをによってアイスホッケーのルールとフィンランド人にとってどれだけ重要なスポーツなのかという説明をしてくれました。そのおかげで、わたしたちは初めてにもかかわらず、アイスホッケーを何十年来のファンのように大声をあげて応援し、楽しむことができました。

今回の派遣を通して、今後受入れをする際には、こちら側が良いと思うことを海外からのお客様に押し付けをするのではなく、相手の希望や意向も組み入れた上でプログラムを組むことと招へい側の意図が伝わるような十分な説明の大切さを改めて実感しました。そして改善点をすべてプラスの方向に持っていけるように、常に反省することを忘れずに、相手の立場に立ったホスピタリティを目指して活動していこうと思います。

「第1回青年の船 2000年記念のつどい」の開催

第1回「青年の船」が1968年1月に晴海埠頭を出港してから約33年が経過した2000年9月30日、10月1日。52日間の航海の日々を過ごした「さくら丸」から見たようなきれいな青い海を目の前にした熱海後楽園ホテル・タワー館において「第1回青年の船 2000年記念のつどい」を開催しました。

第1回「青年の船」の「つどい」は、これまですべて東京代々木の日本青年館で開催されてきましたが、2000年という区切りの年に「全員が宿泊し、温泉にでも入りゆっくり旧交を暖めよう。そして21世紀に向けての活力にしよう!!」と、初めて会場を東京から離れて熱海に設定しました。

東京周辺の実行委員により月1回のペースで9回にわたる会合を重ね準備を進めましたが、男性陣の多くは各職場において重い責任を担っている

年回りであり、具体的準備作業は女性陣の力に頼ることになりました。「青年の船」事業開始の際に一部で議論があったように、もし女子団員を乗せていなかったら今回「2000年記念のつどい」も成り立たなかったのではないかと思われたものでした。

当日は、早めにスケジュールを通知しておいたため海外からの参加者2名も含め、北は網走から、南は熊本、大分まで合計104名が参加しました。

第1部の開会行事では、横山団長、橋本副団長をはじめとする亡くなった方々に対する黙禱、そして馬淵委員長の再会を喜ぶ挨拶、吉岡元管理官の乗船当時を偲ばせる温かいお話、佐藤教官の明治百年事業としての「青年の船」とミレニアムの年につどいを開催する意義についての参加者を鼓舞するお話のあと、全員で「青年の船」の歌を合



唱しました。

第2部ではくつろいだ雰囲気のもとに、海外及び遠距離からの参加者等に対する記念品の贈呈や参加者全員による近況報告を行い、皆がそれぞれの場で活躍している様子の報告とともに今後に向けての決意を確認しあいました。

第3部では会場を移し、全国各地の団員が持ち寄った「ふるさとの特産品」を賞味しながら個人レベルでの交流を深めました。

約33年前のさくら丸での航海中はカリキュラムがぎっしり詰まっております、「ああしんど与えて下さい3時間(参事官)」という川柳が共感をもって団員に迎えられたものでしたが、今回の「2000年記念のつどい」では3時間を上回る多くの語らいの中で、いつまでも変わらぬ友情を深め、それぞれの今後の活動の源を養う充実したつどいとなりました。

翌10月1日は、希望者による箱根方面へのオプションツアー、「青年の船」の航海を偲ぶ初島へのミニクルーズ、芸術の秋にふさわしく美術館に向うものなどに分かれ、熱海での「第1回青年の船2000年記念のつどい」を散会しました。

(2000年記念のつどい実行委員会 町田 秀行)

32歳で「青年の船」に乗り、32年ぶりに「2000年の記念のつどい」の案内をいただいた。これは是非参加しなければと決意した。

今までは何分遠隔地で時間的余裕もなかったため欠席ばかり続けているうちに、名簿上行方不明者になっていたらしい。それを今回は探し出して案内をいただいたのには恐縮した。どうせ参加するなら妻も同伴してやろうと決心した。

しかし日が近づくにつれ不安が増してきた。32年も経ているとお互い顔形も変わっているだろう。なかには姓も変わっている。はたして知っている人がいるだろうか。

こんな不安は受付の段階で吹き飛んでしまった。すぐに「やあ、しばらく」と声をかけてシンガポールの夜の話を持ちかけてくれる人がいた。懇親会が始まると遠隔地から参加したという理由で、一番に紹介され記念品までいただいた。船の思い出とともに、その後の人生の歩みを聞いていると尽きるところを知らず、あっという間に一夜は更けてしまった。

「青年の船」は吾々の青春そのものであった。その後の人生には人それぞれの歩みはあったであろうが、集えばすぐ青春に立ち返る。こんな集いが他にあるであろうか。青春の一時期、三島で過ごした私にとって熱海には特に思い出が深かった。熱海後楽園ホテルの社長にも親切にいただいた。皆さんからかけがえのない親切と元気をいただいたつどいであった。

(第1班 網走市 磯江 良三)

第1回「青年の船」同窓会に行きましよう隣町の元団員から32年ぶり、突然の電話。

熱海後楽園ホテルでの一夜はそれはそれは素晴らしかった。今なお興奮が続いている。団員の岸本社長が一肌も二肌も脱いでくれたおかげである。そして役員さんたちの経験と頭脳と献身のおかげでこりゃまた心地よい興奮の玉手箱だった。

一次会、二次会、三次会、もったいなくて寝られない。写真を今見ると私たちが喋っている後ろであの奥野照義さんが寝ておられる。管理部には

内緒だ。これだけは歳月と年輪に免じて許していただく。フランスから飛んできた萩史郎は今なお私たちの息子同然だ。おっ！アメリカからは小林広子さんだ。

つくづく感じた。「青年の船」の団員は世界中に散らばって活躍するまさに各地のエリートである。そう、総理府の人たちに声を大にして言いたい。女を乗せた青年の船。何億も使ったけれども、「青年の船」は大成功。まさに答えは出ていた。輝いている人だちをみて、あれはすごいプロジェクトだったと感心した。私の原点は「青年の船」ですと堂々と言う人がまぶしい。

帰ってから欠席の人に報告。

「真知子のメールレポート：熱海の旅日記」で読者である町の人がこのホテルに飛びついてくれ

た番外編があったのもうれしい。ネットワークがどんどん広がって行く。

みんな50歳代、60歳代でちょっと息をつける年代に入ってきたからか？一方で5%ぐらいの人が物故者となっておられた。息もつける年代ではあるが息も止まる年代に入ってきているのだ。10年後にはまたお会いしたい。今回の欠席の人、絶対生きてやってきてね。

ありがとう「青年の船」。

東さんからいただいた五代梅をしゃぶりながら、池畑さんからいただいたお茶をすすりながらこの原稿を書きました。

(第11班 岡山県 渡辺真知子)

同期会をにっぽん丸で

～ IYEO本部より「リフレッシュ・クルーズ」のお誘い ～

同期会の世話役の皆さん、節目となる記念の年の同期会を「にっぽん丸」でしませんか。昨年は、「リフレッシュ・クルーズ」の場を活用して「第13回青年の船」「第7回世界青年の船」既参加者の皆さんが同期会を実施し、大変好評でした。

同期会2001年リフレッシュ・クルーズ（IYEOの提案）

- ・使用船舶 客船「にっぽん丸」（総トン数21,903トン、船客定員202室600名）
- ・日 程 2001年12月14日（金）夜乗船～16日（日）朝下船
14日（金）夜 晴海停泊／15日（土）朝晴海発
16日（日）午前東京港着
- ・参加費 1室3名ステートルーム使用 39,000円程度を予定
1室2名ステートルーム使用の価格も検討中
- ・募集人員 350名（最少催行人員250名）
- ・今後の手続き

同期会の世話をされる方は、できるだけ早く（5月末までに）方針を決めて、IYEO本部（電話03-3249-0767 FAX03-3639-2436）にお知らせください。（担当 大橋）

2001年山口全国大会に向けて

21世紀最初の全国大会を、ここ山口で開催させていただくこととなったことをとても光栄に思っています。

さて、山口県は、本州の最西端に位置し、三方を海に囲まれ、古来からアジア太平洋へ向けてのわが国の玄関口として重要な役割を担ってきました。また、今から約130年前の近代日本の幕開けに主導的な役割を果たした地でもあり、そうした歴史的な背景から、県民の国際交流に対する関心も高いものがあります。ここで、山口県青年国際交流機構（山口IYEO）の紹介をしたいと思います。

- ・昭和40年代後半から毎年内閣府（総務庁）事業の引き受けを実施
- ・県内を8ブロックに分け、各支部独自の事業実施及び支部間連携による事業展開
（現在は、山口大学ESSを新たに支部の一つに加え、9支部体制）
- ・他のNGO団体との連携による活動
- ・慶尚南道5大学、釜山大学との交流を独自に展開するなど、韓国との交流が活発

来年の全国大会では、こうした山口IYEOの実績、培ってきたノウハウを情報発信するとともに、全国の皆さんにも各地域の事例を持ち寄っていただき、情報（ノウハウ）の交流を図る予定です。そして、ここ山口を情報交流の拠点に、新たな国際交流展望を示す、21世紀の出発点にふさわしい大会にしたいと考えています。

また、今回の山口大会は、21世紀未来博覧会「山口きらら博」（7月14日から9月30日まで阿知須町にて開催）とのジョイントによる開催も特徴の一つで、参加者には入場券もプレゼントします。なお、大会会場ときらら博会場を結ぶバスを運行します。きらら博では、国際交流館での出展パフォーマンスの準備を進めているところです。

開催時期は夏休み期間中でもあり、家族連れでの参加を心よりお待ちしております。

開催まで残り10か月を切りましたが、「山口らしい」そして「来てよかった」と言ってもらえる大会となるよう、これから実行委員一丸となって準備を進めていきたいと思っています。

おいでませ、山口全国大会へ!

開催予定：平成13年8月4日（土）～5日（日）
主会場：山口県婦人教育文化会館
（山口市湯田温泉）

山口県青年国際交流機構会長
宗廣 宜之



富山大会にて会期の引き継ぎを受け
山口大会の成功を誓う宗廣会長

平成12年度内閣府(総務庁)青年国際交流事業帰国報告会について

平成12年度内閣府(総務庁)青年国際交流事業派遣者は、それぞれの訪問国および船上で様々な経験を
得て帰国いたしました。事業を通して彼らが得た感動を皆様に伝えるべく、実行委員を中心に着々と準備を進
めております。帰国報告会は皆様と今年度派遣者の経験を共有する機会でもありますので、お誘い合わせの上、
是非ご参加下さい。

平成12年度内閣府(総務庁)青年国際交流事業報告会(航空機による海外派遣)

・日時：平成13年2月4日(日) 受付 12:30 開会 13:00

主な内容：平成12年度事業概要説明
パネルディスカッション
派遣団ブース展示・発表
座談会

*事業報告会ホームページを公開しております。 <http://www.iyeo.or.jp/Air/2000/>

第13回「世界青年の船」帰国報告会

・日時：平成13年2月11日(日) 受付 12:30 開会 13:00

主な内容：第13回「世界青年の船」概略説明
ビデオ上映
パネルディスカッション
分科会

*活動記録ホームページを公開しております。 <http://www.iyeo.or.jp/swy/13>

第27回「東南アジア青年の船」帰国報告会

・日時：平成13年3月4日(日) 受付 12:30 開会 13:00

*平成13年度内閣府青年国際交流事業参加者募集説明も行います。事業参加希望の方がいらっし
ゃいましたら、ご紹介ください。

会場(いずれも)：国立オリンピック記念青少年総合センター国際交流棟 国際会議室

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1(小田急線参宮橋駅下車徒歩7分)

参加費(いずれも)：無料

参加希望の方は、氏名、住所、電話番号、参加希望報告会名を明記の上、お葉書またはファクスにて下記
までお送りください。

連絡先：(財)青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階

Tel: 03-3249-0767 Fax: 03-3639-2436 E-Mail: hq@iyeo.or.jp

日本青年国際交流機構活動スローガン募集！！

日本青年国際交流機構では、2年毎に活動スローガンを決定し、それに基づいて活動を行っています。平成13年度から使用する活動スローガンを皆さんから大募集します。日本全国の会員の皆さんから様々なアイデアをお待ちしています。

1. **スローガン設定にあたっての留意点**

平成11年2月に策定した日本青年国際交流機構活動方針（P.20 参照）に沿った内容として下さい。

2. **応募の方法**

応募はされる際は、スローガンの案とご自分のお名前、住所、連絡先（電話、ファックス番号、メールアドレス等）及び参加事業を明記の上、平成13年2月13日（火）までに IYEO 事務局までお寄せください。

IYEO 事務局

〒103-0013 中央区日本橋人形町 2-35-14 東京海苔会館 6階
FAX:03-3639-2436 E-mail:hq@iyeo.or.jp

3. **スローガンの選考方法**

平成13年2月24日～25日に東京で開催される第33回全国推進会議にて、スローガン（案）として提出され、討議・多数決により2～3つを選出することとしています。採用されれば、平成13年度から2年間、そのスローガンに沿って IYEO は活動していきます。

4. **スローガン過去の事例（参考）**

平成10年度～12年度（現在）

- ・引き継ごうあの日の感動を、育てよう次の世代を！
- ・広げよう感動の輪 楽しもう国際交流！
- ・広げよう、世界へのネットワーク

平成8年度～9年度

- ・世代と国境を越えたネットワークを創り上げよう！
- ・もっと外国を知ろう、日本を教えよう！

日本青年国際交流機構活動方針（抜粋）

平成 11 年 2 月策定

1. 国際化時代にふさわしいリーダーの育成

(1) 時代を担うリーダーを自らの手で発掘する

数多くの活動の中で最も基本となるものは、私たちの原点である派遣経験を次代を担う若人に伝えることであろう。その中でも特に、子供たちへのアプローチに力点を置きたい。

(2) 地域青年団体の一つとして指導的役割を果たす

2. 地域国際化への貢献

(1) 国際交流の機会を提案する

(2) 交流体験を活用する

3. 国内・国際ネットワークの確立と機能充実

(1) 47 都道府県のネットワークを活用する

本会は、各都道府県ごとの独自性を尊重しながら全国 47 通りの活動が展開されている。地方の時代にふさわしく、今後とも個性豊かな地域の活動にしていきたい。

(2) 国際ネットワークを拡充する

「東南アジア青年の船」事業を通じ、ASEAN 各国とは SSEAYP International という国際組織が結成された。韓国との相互交流も軌道に乗り、「世界青年の船」、「日本・中国青年親善交流」、「国際青年育成交流」事業で交流を深めた国々とも連携が図られつつある。

編集後記

21世紀の幕開けを迎えるとともに、省庁再編で総務庁青年国際交流事業の所管が、内閣府という新しい役所になりました。新たな動きの中で

が、より良き国際交流の場を作っていくために変わらぬ努力を続けながら、様々な変化にも対応できる柔軟性を心がけたいと思います。(R)

*本誌の年間講読をご希望の方は、叻青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM (マクロコズム) 1月号 Vol.38 2001年1月20日発行 (隔月発行)

編集: マクロコズム編集委員会

発行: 財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail hq@iyeo.or.jp

URL <http://www.iyeo.or.jp>

編集協力: 内閣府政策統括官
(総合企画調整担当)

日本青年国際交流機構

定 価: 198円 (本体189円)

印刷所: 株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960

第13回「世界青年の船」

◀ 17か国の国旗がたなびく



第13回「世界青年の船」

9日間の日本国内プログラムを終了した外国青年約150名と直前研修から合流した日本青年約120名を乗せて2000年9月5日から10月23日の期間で第13回「世界青年の船」事業が運航されました。今回の「世界青年の船」は、初めてロシアの参加を得るとともにロシアのウラジオストックへの寄港も実現しました。[9/5 日本(東京)～ロシア(ウラジオストック)～アメリカ(ハワイ)～タヒチ(パペーテ)～トンガ(ヌクアロファ)～ニュー・ジーランド(オークランド)～シンガポール 10/23]

「世界青年の船」の醍醐味は、17か国の青年との船上生活。様々なクラブ活動やセミナー、ディスカッションそして交流プログラムは、価値観も変える程の人と人とのコミュニケーションを生み出します。



▲ 初参加のロシア参加青年



にっぽん丸・ふじ丸



感動航海クルーズラインアップ 2001.3~2001.9

ふじ丸 小笠原スプリングクルーズ

神戸→二見(小笠原・父島)→神戸 134,000円~578,000円
3月8日(木)~3月13日(火)6日間
○食事:朝食5回、昼食4回、夕食5回

ふじ丸 南西諸島・台湾クルーズ

東京→奄美大島(古仁屋)→石垣 238,000円~1,020,000円
→基隆→神戸 3月14日(水)~3月22日(木)9日間
○食事:朝食8回、昼食7回、夕食8回

にっぽん丸 日本探訪・春クルーズ

東京→今治→長門(仙崎)→長崎→
屋久島(宮之浦)→奄美大島(名瀬)→東京 318,000円~1,280,000円
4月1日(日)~4月10日(火)10日間
○食事:朝食9回、昼食9回、夕食9回
※区間乗船コースもございます。詳しくはお問い合わせください。

にっぽん丸 小笠原スプリングクルーズ

東京→二見(小笠原・父島)→東京 154,000円~578,000円
3月14日(水)~3月19日(月)6日間
○食事:朝食5回、昼食4回、夕食5回

ふじ丸 鳥島周遊アホウドリ・ウォッチングクルーズ

横浜→(鳥島周遊)→横浜 52,000円~252,000円
3月23日(金)~3月25日(日)3日間
○食事:朝食2回、昼食2回、夕食2回

ふじ丸 薫風の瀬戸内海周遊クルーズ

~ユニバーサルスタジオ、京都英祭り~
5月13日(日)~5月15日(火)3日間
○食事:朝食2回、昼食2回、夕食2回
Aコース 東京→大阪 54,000円~276,000円
Bコース 東京→大阪 86,000円~308,000円 (ユニバーサルスタジオ・ジャイロ観光)
Cコース 東京→大阪 80,000円~302,000円 (京都英祭り・観光)

国土交通大臣登録旅行業第946号 (社)日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員

主催



商船三井客船

〒102-8552 東京都千代田区紀尾井町3の6 秀和紀尾井町パークビル5階
◎旅行業務取扱主任者/内山 勝美 ◎http://www.mopas.co.jp
MOPASは商船三井客船の愛称です。

海が恋しくなったら……

思い思いのパケーションを、

あなたの一番だいじな人と——。

MOPASの船は、海に浮かぶオアシス。

海が恋しくなったら、いつでもお越しく下さい。

心からクルーズを楽しんでいただくために、

すべてをあなたのためにご用意させていただきます。

日常に飽いたとき、ひとときの休息と

幸福を求めて、人は心の旅に出ます。

大海原に抱かれて、旅、しませんか。

MOPASはいつでもお供します。



～花の霧島と桜島、美しい折りの島・五島～
ふじ丸 新緑の鹿児島と五島列島クルーズ
 大阪→鹿児島→五島(福江)→神戸 96,000円～420,000円
 5月24日(木)～5月27日(日)4日間
○食事:朝食3回、昼食4回、夕食3回

～横浜港の花火と青森ねぶた、秋田竿燈祭6日間～
にっぽん丸 横浜花火大会と東北夏祭りクルーズ
 東京→横浜→青森→秋田→横浜 230,000円～810,000円
 8月1日(水)～8月6日(月)6日間
○食事:朝食5回、昼食5回、夕食5回

～萩と有田・伊万里、焼き物の町巡り～
にっぽん丸 初秋の長門・唐津クルーズ
 神戸→長門(仙崎)→唐津→神戸 108,000円～426,000円
 9月6日(木)～9月9日(日)4日間
○食事:朝食3回、昼食4回、夕食3回

ふじ丸 初夏の利尻・礼文クルーズ
 名古屋→東京→利尻島(寄形)→礼文島(香深)→東京 194,000円～740,000円
 6月12日(火)～6月18日(月)7日間
○食事:朝食6回、昼食6回、夕食6回
*東京からの乗船コースもございます。詳しくはお問い合わせください。

～秘境祖谷溪、こんびらツアー～
にっぽん丸 阿波踊りと伊予三島クルーズ
 横浜→小松島→三島川之江→東京 154,000円～592,000円
 8月12日(日)～8月16日(木)5日間
○食事:朝食4回、昼食4回、夕食4回

ふじ丸 秋の日本一周クルーズ
 東京→神戸→蘭越(浦郷)→宮津→大湊→室蘭→東京 262,000円～1,260,000円
 9月17日(月)～9月26日(水)10日間
○食事:朝食9回、昼食8回、夕食9回
*区間乗船コースもございます。詳しくはお問い合わせください。

※上記の旅行代金は、ふじ丸のグループ4(4名1室)および、にっぽん丸のグループ3(3名1室)から、スイートルーム(2名1室)までの大人お一人様の代金です。 ※オプションツアー(別途料金)もご用意いたします。
 ※南西諸島・台湾クルーズを除く代金は消費税を含みます。

お問い合わせは、各クルーズ取扱旅行会社またはMOPASクルーズデスクへ。

クルーズデスク  **0120-791-211** チャータークルーズのお問い合わせは **03-5211-5221**
 フリーダイヤル

※最少催行人員2名 ※全日程船中泊
 ※添乗員は同行しません。現地及び船内係員がお世話いたします。
 ※お問い合わせの時点で、すでに満室となっている客室タイプもございますので予めご承知をお願いします。

美しい時代へ — 東急グループ

行ってらっしゃい、
いい旅へ。



豊富な経験と実績を生かして、いちばんの旅をおつくりします。
大きな感動と、心に残る出会いのために。私たち東急観光は、総合力でお応えします。豊富な商品と旅のプロフェッショナルが、個人旅行から団体旅行まできめ細かく対応。全国網の支店と海外の主要拠点を結ぶ、充実のネットワーク。お客様一人ひとりのご要望と目的にあわせて、旅のプロローグからエピローグまで演出します。あなたにいちばんの満足を。

—— 旅のすべてを知っている東急観光です。 ——



豊かな感動のステージへ

東急観光

運輸大臣登録旅行業第38号 ©日本旅行業協会正会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号
<http://tour.tokyu.com>